

令和7年度第三者評価 改善状況報告書

令和8年4月30日

施設名	港区立障害保健福祉センター	施設所管課	保健福祉支援部障害者福祉課
所在地	港区芝1-8-23	指定管理者	社会福祉法人友愛十字会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和8年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和8年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>【地域活動支援センター】 地域生活支援拠点事業や、発達障害者支援室のさらなる発展のため、関係機関との連携や啓発活動の一層の推進に期待したい。</p>	—	<p>地域生活支援拠点等事業については、特に短期入所事業所、相談支援事業所、港区社会福祉協議会 成年後見推進係、民生委員児童委員との連携構築に努め、事業の周知や意見交換、勉強会・相談会開催などを行ってきた。 発達障害者支援室については、啓発活動として年3回のセミナー開催、SNSなどによる情報の発信を行ったほか、区内の医療機関を訪問するなどして連携構築を図った。</p>	<p>地域生活支援拠点等事業については、コーディネーターを専任で配置し、ヘルパー事業所や地域移行に取り組み障害者支援施設など新たな機関へアプローチし、連携体制の拡大を図る。 発達障害者支援室については、引き続き医療機関などとの連携を強化するとともに、他の支援機関の研修や事例検討へ協力するなどし、地域の発達障害者支援の底上げを図る。</p>	<p>地域生活支援拠点等事業と発達障害者支援室をより発展させていくために関係機関等との関係構築をはじめとして、積極的に取り組んでいることを確認した。 今後も、地域の課題解決に向けて、現在の取組を継続・拡大していくことで、事業をより一層発展させていくことを期待する。</p>
<p>【生活介護】 クラスリーダーの育成を進め、各クラスの職員の意見を吸い上げるとともに、事業所全体での横の連携につなげていくことに期待したい。</p>	—	<p>令和7年度は速やかに意思決定を行うことを優先し、主任・副主任がクラスリーダーを兼務していた。利用者と職員が増加しており、令和8年4月から1クラス増やして運営するため、組織全体でボトムアップを図ることを目的に各クラスへリーダーを配置することにした。</p>	<p>6クラス全てにクラスリーダーを配置し、クラスリーダーの役割を明確にする。クラス会議、クラスリーダー会議、業務調整会議を活用し、職員全員の意見を抽出する。それらの意見は、事業所運営に反映し、組織全体のボトムアップを図る。</p>	<p>利用者、職員が増える等状況が変化する中、柔軟かつ的確に施設を運営していることを確認した。 クラスリーダーの配置により、よりよい支援につながるよう、適宜仕組みの見直しを図っていくことを期待する。</p>
<p>【短期入所】 職員が集まりにくい中でも、今まで以上に相互理解を深め、確実な情報共有への取組をしていくことが期待される</p>	—	<p>日勤、遅番、夜勤の3交代勤務で、全職員が集まることが困難なため、PCサーバー内に引継ぎ用のフォルダを用意している。利用者情報や職員会議の内容等、共有が必要な情報については、同フォルダや書面の回覧により共有している。</p>	<p>職員会議の開催日を固定しているが、参加できる職員が偏らないように、シフトを調整することや開催日を柔軟に変更することを検討する。また、AIを活用した議事録作成を検討しており、逐語録形式での記録等により、議事の詳細が共有できるようにしていく。</p>	<p>様々な工夫を凝らして確実な情報共有に努めていることを確認した。 AIの活用というさらなる取組では、記録の質向上と業務効率化が図れるよう工夫を重ねて行くことを期待する。</p>
<p>【就労継続支援B型】 利用者の高齢化が進展していることから、利用者の機能を維持し、通所を継続できるような取組の進展に期待したい</p>	—	<p>利用者の高齢化による負担軽減を目的に宿泊訓練、バス外出の帰所時間を早めるなど、開催内容を見直しを行った。</p>	<p>参加人数が多い生産活動の一部事業において、利用者一人ひとりの特性や能力、体調面の状況等を総合的に把握し、それぞれが無理なく生産活動が行えるよう適切なグループ編成を行っていく。 また、利用者の機能維持の取組として、現在、毎日(朝・昼2回)ラジオ体操の曲を流して希望者は参加できるようにしているところを、今後は、高齢の利用者には、職員が声をかけて参加を促していく。</p>	<p>高齢になった利用者が利用を継続できるように事業や支援の内容を臨機応変に見直ししていることを確認した。 今後も、利用者の身体機能等状態把握に努めるとともに、それぞれの状態に合わせた業務・支援に適宜見直ししていくことを期待する。</p>
<p>【放課後等デイサービス】 新人職員に対するOJTの役割分担の見直しや次世代リーダーの育成など、さらなる人材育成の取組を進めていくことが期待される。</p>	—	<p>OJT係による定期的な振り返り面談を徹底して実施した。また、当日の業務内容や支援の見通しを新人職員が持てるよう、OJT担当者が事前に内容を明示し、計画的にOJTを進める体制を整えた。重症心身障害児への支援は専門性が高く、介助技術や看護技術の習得には個人差が生じやすいため、どのように均質な指導を行うかが課題としてあがった。</p>	<p>次世代リーダー育成を意識し、各グループにリーダー、サブリーダーを設置し、これまでリーダー不在であった看護師も1グループとして、リーダー、サブリーダーを設置。令和8年度はリーダーをまとめ役としたチーム運営を行っていく。 また、定員増へむけ、さらなるチーム構築のための内部研修の実施とチームリーダー育成のための内部研修を実施予定。令和7,8年度8名の看護師増もあり、看護師対象に専門的な重心児の看護・介護技術習得のためのOJT継続予定。</p>	<p>人材育成の取組として、OJT制度の見直しやチームリーダーの配置を行い、見出した課題を解決するよう積極的に取り組んでいる状況を確認した。 今後、施設の状況が変わっていく中でも、柔軟に取り組んでいくことを期待する。</p>